

進路だより

第5号 H29. 9. 28

浜田水産高校

進路指導部

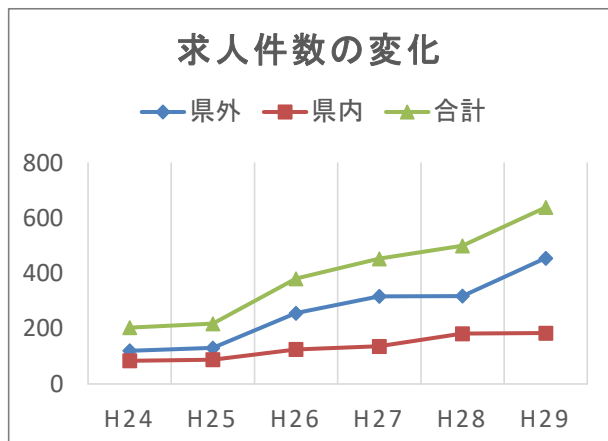
採用試験スタート

9月16日より3年生就職希望者の採用試験が始まりました。この日を迎えるために進路指導部ではインターンシップ、進路ガイダンス、就職セミナー、企業説明会などの行事を実施してきました。また、夏休み中の補習や就職試験直前指導も行いました。3年生の皆さんが受験のために準備をする機会を設けたつもりですが、果たして十分だったでしょうか。毎年のことですが、もっと出来ることがあったのではないかと、個人的にもう少し指導をしてあげればよかったのではないかなど、申し訳ない気持ちで受験に出発する皆さんを見送りました。あとは良い知らせが届くことを祈るのみです。

求人状況

今年の求人票受け付け件数は、9月21日現在で639件です。昨年度が全部で500件だったので、かなり多くなっています。下のグラフは過去6年間の求人受け付け件数の変化を表したものです。県内求人比べ、県外からの求人数が大きく伸びています。その影響かどうか分かりませんが、今年の3年生は県外就職希望者の割合が高くなりました。また、現在も求人票が毎日のように届いているので、平成29年度の最終的な数字は、まだまだ多くなるのは確実だと思われます。(平成29年度はまだ約6ヶ月残っています。)

少子化によりどの業種も人手不足(特に若い人)になっているようで、現在の求人状況はしばらく続くのではないのでしょうか。企業の人事担当者は、少なくとも東京オリンピックまで続くと予想する人が多いようです。



求人票の受け付けが始まる前に、求人票をファイルするためのクリアブックを購入して準備していましたが、予想よりたくさんの求人票が届いたので追加購入しました。生徒の皆さんにとってはよい傾向です。1年生・2年生の皆さんが3年生になったときにも、追加購入が必要になるくらいだといいいですね。

専攻科の求人について

専攻科の情報を進路だよりに載せることがないので、今回は専攻科の求人状況についてお知らせします。海洋技術科の1・2年生で、専攻科への進学を考えている人はぜひ参考にしてください。

人手不足は船の世界も同様で、海運会社や漁業会社からの求人がたくさん届いています。電話で紹介を依頼されるケースもあるので、これらを含めると60件以上になっています。ただし、専攻科生は『海技士の資格(三級筆記)を持っている』というのが条件となる場合が多いので、専攻科生及び専攻科進学希望者はしっかり勉強してください。

また、船の世界には公務員もあります。専攻科生へは公務員の採用試験案内がたくさん届きます。ここが本科生とは違うところです。

では具体的にどんなところから届いているかというと、国家公務員では海上保安庁、水産庁、気象庁、国土交通省などが所有する船艇の乗組員、地方公務員では北海道、青森県、福島県、東京都、神奈川県、福井県、大阪府、和歌山県、岡山県、鳥取県、島根県、高知県、福岡県、佐賀県、鹿児島県などから届いています。職種としては漁業取締船、試験調査船、練習船、警察警備艇の乗組員などを募集するものです。他にも海技教育機構や海洋研究開発機構といった公務員に準ずる団体からも届いているので、公務員等を希望する人には今がチャンスです。

現在の日本では船員を養成する学校が減り続けています。従って、本校のように海技教育を展開し、船員を供給できる学校は貴重な存在となっているようです。海運会社の方と話す機会がたくさんありますが、いつも専攻科生は期待されていると感じます。船の世界では『専攻科生は金の卵』のようです。